

ブラジルの金利引き上げについて

2015年4月30日

4月29日（現地時間）、ブラジル中央銀行は、定例の金融政策委員会において政策金利（翌日物国債レポ取引金利：Selic）の0.50%引き上げを全会一致で決めました。これで同国の政策金利は13.25%となりました。利上げは5会合連続となりますが、市場関係者の多くが今回の利上げを予想していたこともあり、市場への影響は限定的となっています。

《金利引き上げ決定に至った経緯について》

連続利上げ実施の背景としては、①インフレ抑制、②自国通貨の水準安定が挙げられます。

- ①高金利政策によって景気への下押し圧力が強まっており、不況が長期化していますが、ブラジルではインフレ抑制のため、高金利政策を継続する必要があります。
- ②ブラジル・レアルは主要輸出品である鉄鉱石などの資源価格が下落しておりドル、円などの主要通貨に対し3月中旬まで下落基調にありました。現在は落ち着きをみせていますが、政府・中央銀行は通貨安が原因となる資本流出を抑制するためにも、利上げによる自国通貨の安定を図りたいとみられます。

《今後の景気、為替レートについて》

当面のブラジルの経済政策発動の優先順位として、インフレ抑制、財政収支の改善、その次に景気回復が位置づけられていると考えています。

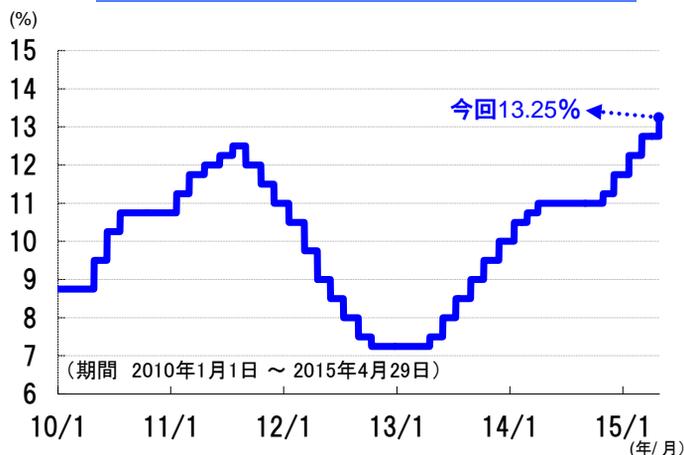
インフレについては、昨年までは同国のターゲットの上限近辺で抑えられていたため、利上げも最終局面を迎えているとみていましたが、その後上昇に転じ3月も急伸しました。この原因として、自国通貨安を受けた輸入インフレや国内労働生産性の低下による影響が考えられます。しかし3月下旬以降は為替レートが堅調となっており、輸入インフレについては改善がみられ始めると考えられます。

財政収支の改善について大統領は目標達成のため、あらゆる手段を講じるとしており、市場ではこの姿勢を評価しています。投資適格の格付を維持するため財政規律を厳格化し継続しています。今しばらく景気への下押し圧力が続くともみています。国営石油資本企業であるペトロブラスの政界汚職の問題の広がりから、大統領の支持率や求心力の低下が進みました。同企業の資金繰り難からの資産売却や投資減が経済にも影響も及ぼしてきましたが、先日、遅れていた決算発表が行われたことで市場に安心感も広がりました。

ブラジル・レアルは、3月の政府による市場介入強化策の見送りから下落が予想されていましたが、このところは株価の上昇もあり資金流入から上昇しています。懸念された資本流出がそれほど起きていないことも背景にあると思われます。為替レートは株価次第でさらなる上昇への期待もありますが、通貨当局が輸出増のため自国通貨安を容認する可能性もあることから上値は限定的とみています。

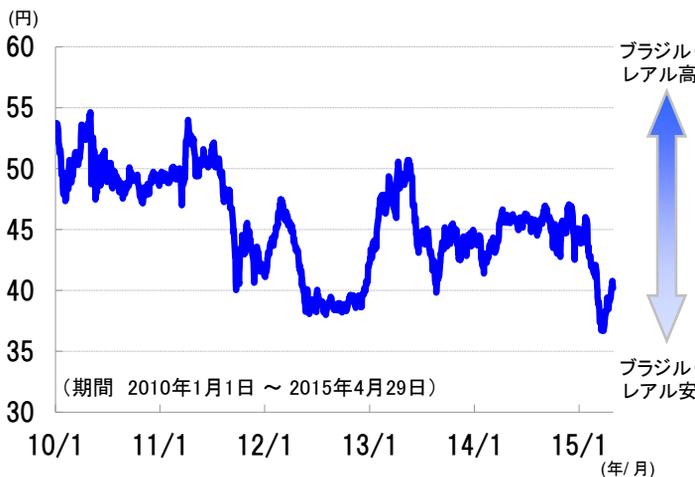
状況によっては安全資産選好の動きが強まる局面があることも考えられるため当社でも引き続き同国に関わる市況動向を注視してまいります。

《ブラジルの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《ブラジル・レアルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。